

神奈川県 商工会地区

## 中小企業景況調査報告書

—平成27年 7月～9月期 実績—  
—平成27年 10月～12月期 見通し—



神奈川県商工会連合会

中 小 企 業 景 況 調 査 (平成27年7月～9月期)

◇ 調 査 概 要

1. 調査目的

商工会地区内の地域産業の状況、経済動向等について一定期間ごとに変化の実態や諸事情を把握し、経営改善普及事業の効果的実施を図る。

2. 調査対象

(1)対象地区

10商工会地区

(逗子市・二宮町・寒川町・小田原市橋・湯河原町・愛甲・南足柄市・足柄上・津久井・藤野)

(2)対象企業数

150企業

(3)回答企業数

150企業(回答率100%)

3. 調査対象期間

平成27年7月～9月期(調査時点 平成 27年9月1日)

4. 調査方法

(1)商工会の経営指導員による訪問面接調査

(2)調査対象地区の決定は、商工会地区市町村の人口規模別実態を勘案し、調査対象企業の抽出は、業種、規模等有意選出法による。

5. 対象地区別回答企業数内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	調査企業数
逗子市商工会	3	2	3	7	15
二宮町商工会	3	2	4	6	15
寒川町商工会	3	2	4	6	15
小田原市橋商工会	3	2	4	6	15
湯河原町商工会	2	2	2	9	15
愛甲商工会	2	2	3	8	15
南足柄市商工会	2	2	3	8	15
足柄上商工会	3	4	3	5	15
津久井商工会	3	2	4	6	15
藤野商工会	3	2	4	6	15
合 計	27	22	34	67	150

6. DIとは

本報告書の中で一部数字に用いた「DI」指数とは、ディフュージョンインデックス(景気動向指数)の略で、企業経営者の景気見通しを表す指標として利用されている。

増加(上昇、好転、長期化)と減少(低下、悪化、短期化)の企業割合の差を示す。

DIがプラス(+)なら……強気(楽観)

DIがマイナス(-)なら……弱気(悲観)

(例)売上高で増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合のDI指数

DI指数・・・50%－20%＝30%

となり、全体としての経営者の売上に対する強気の度合いを表している。

◇業種別(中分類)企業構成

(1)製造業

業種内訳	企業数	構成比
食料品製造業	4	14.8%
飲料・飼料・たばこ製造業	0	0.0%
繊維工業	0	0.0%
衣服・その他繊維製品製造業	2	7.4%
木材・木製品製造業	1	3.7%
家具・装備品製造業	2	7.4%
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0%
印刷・同関連業	1	3.7%
化学工業	0	0.0%
プラスチック製品製造業	2	7.4%
窯業・土石製品製造業	0	0.0%
金属製品製造業	4	14.8%
一般機械器具製造業	3	11.1%
電気機械器具製造業	2	7.4%
輸送用機械器具製造業	2	7.4%
精密機械器具製造業	1	3.7%
その他製造業	3	11.1%
合 計	27	100.0%

(2)建設業

業種内訳	企業数	構成比
総合工事業	13	59.1%
職別工事業	4	18.2%
設備工事業	5	22.7%
合 計	22	100.0%

(3)小売業

業種内訳	企業数	構成比
各種商品小売業	0	0.0%
織物・衣服・身の回り品小売業	3	8.8%
飲食料品小売業	14	41.2%
自動車・自転車小売業	1	2.9%
家具・建具・じゅう器小売業	2	5.9%
その他小売業	14	41.2%
合 計	34	100.0%

(4)サービス業

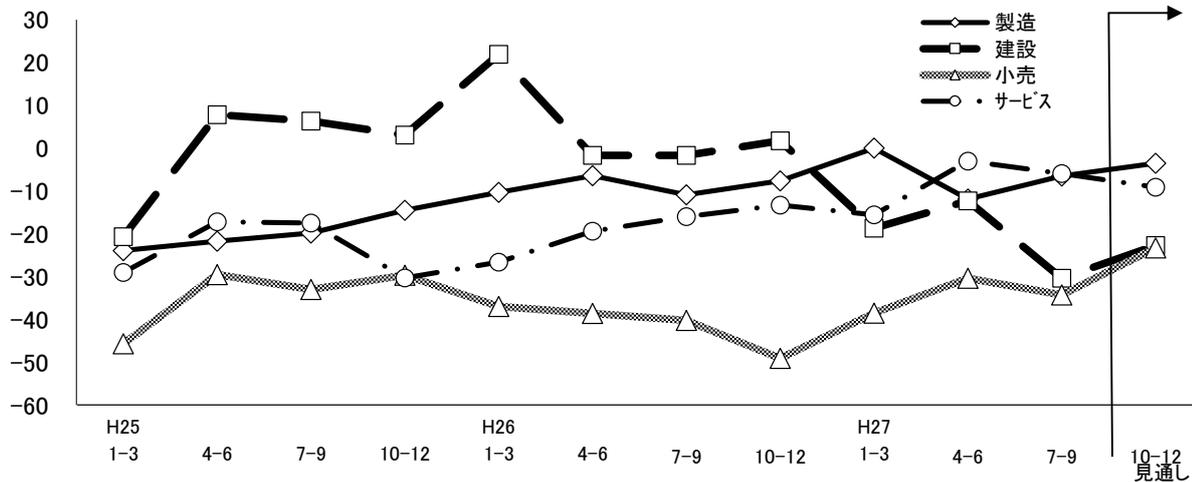
業種内訳	企業数	構成比
一般飲食店(一般・遊興)	23	34.3%
宿泊業	5	7.5%
運送業	0	0.0%
自動車整備業	3	4.5%
洗濯・理美容業	20	29.9%
その他のサービス業	16	23.9%
合 計	67	100.0%

### ◇産業全体の景況概要

関東経済産業局によると、生産活動は、夏季休暇に伴う稼働日数の減少や、中国向け受注の減少などが指数低下の要因となり、鉱工業生産指数が前月比で4か月連続の低下となったことから、弱含みで推移している。また、雇用情勢は、有効求人倍率が上昇するなど、総じてみると管内経済は、緩やかに回復している。今後については、国際情勢の変化が国内経済に与える影響について留意する必要がある。（8月のデータを中心として）

- ・ 鉱工業生産活動は、弱含みで推移している。
- ・ 個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は、改善している。
- ・ 公共工事は、3か月ぶりに前年同月を上回った。
- ・ 住宅着工は、7か月連続で前年同月を上回った。

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移  
(平成25年1-3月期～平成27年10-12月期)



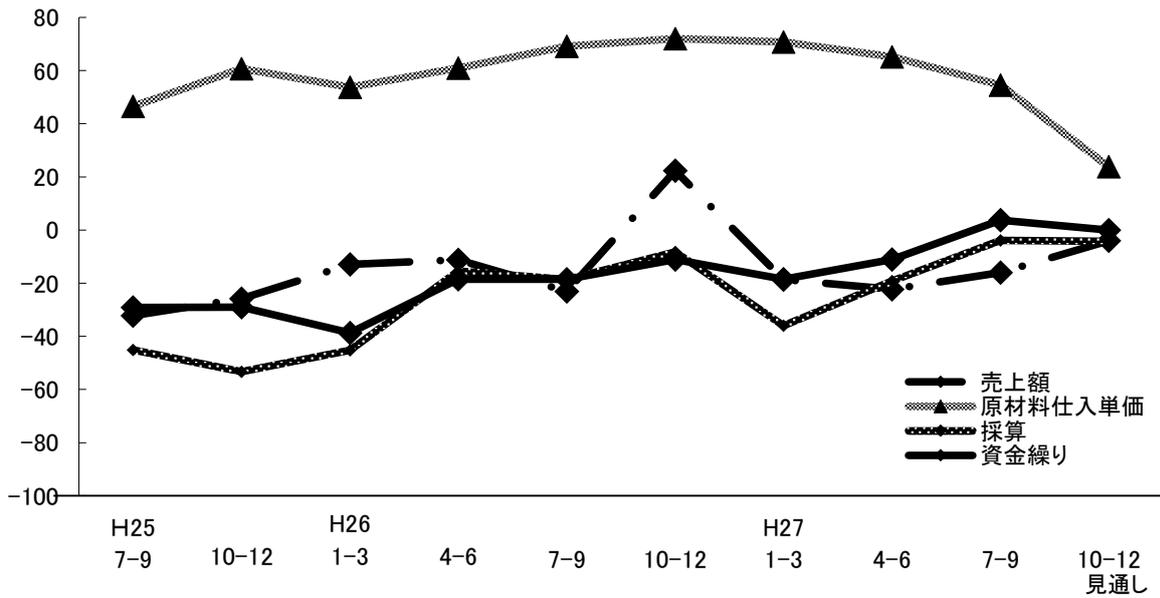
業種別景況天気図

	製造業 27 企業		建設業 22 企業		小売業 34 企業		サービス業 67 企業	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H26/10-12	△ 7.6		1.7		△ 49.1		△ 13.3	
H27/1-3	0.0		△ 18.7		△ 38.5		△ 15.6	
H27/4-6	△ 11.9		△ 12.3		△ 30.4		△ 3.0	
H27/7-9	△ 6.5		△ 30.4		△ 34.3		△ 5.9	
H27/10-12 (見通し)	△ 3.5		△ 22.7		△ 23.3		△ 9.1	

- DI: 30.1～.....
- DI: 10.1～30.0.....
- DI: 10.0～△10.0....
- DI: △10.1～△30.0..
- DI: △30.1～.....

◇業種別景況概況

I 製造業



主要項目の天気図

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H26/10-12	22.3		△ 8.3		△ 11.1		△ 7.6	
H27/1-3	△ 18.6		△ 36.0		△ 18.5		0.0	
H27/4-6	△ 22.3		△ 19.2		△ 11.1		△ 11.9	
H27/7-9	△ 16.0		△ 3.9		3.7		△ 6.5	
H27/10-12 (見通し)	△ 4.0		△ 4.2		0.0		△ 3.5	

DI: 30.1~.....

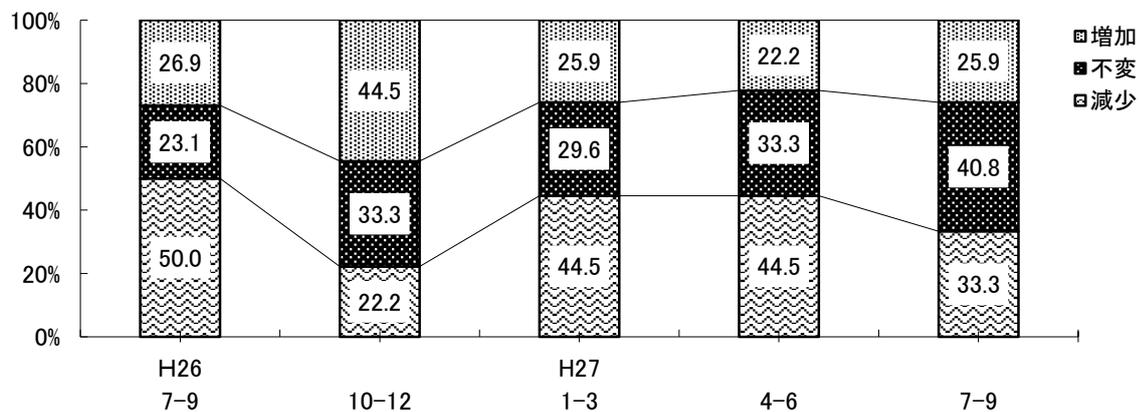
DI: 10.1~30.0.....

DI: 10.0~△10.0...

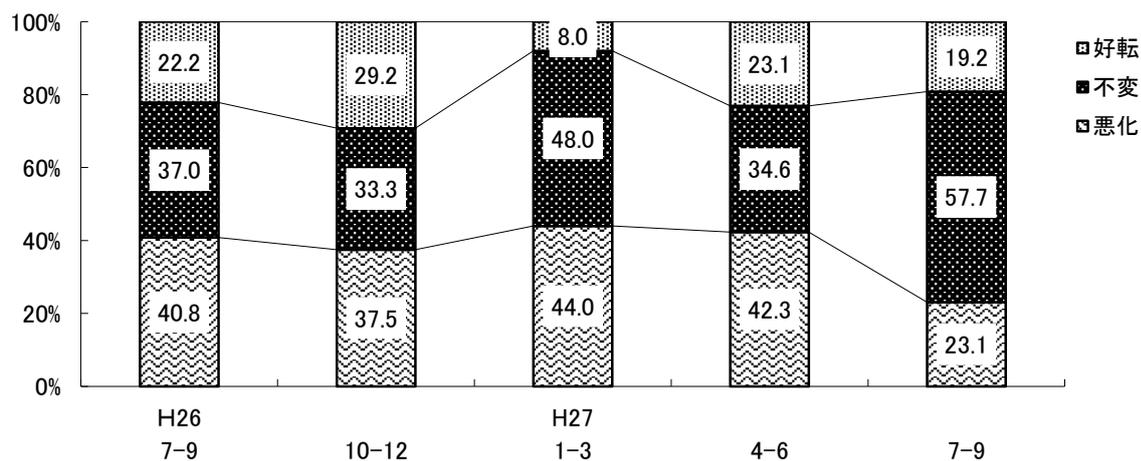
DI: △10.1~△30.0..

DI: △30.1~.....

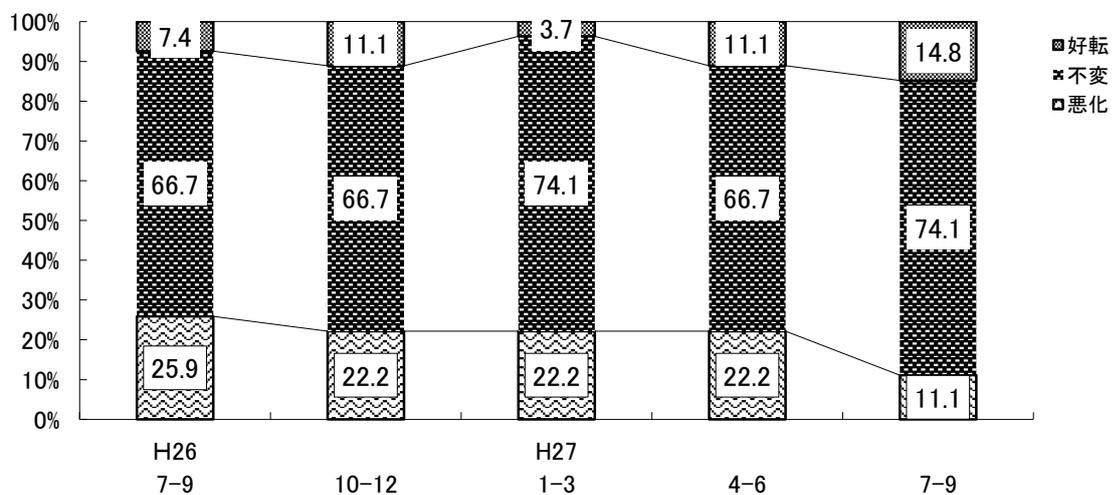
① 売上額の状況－前年同期比－



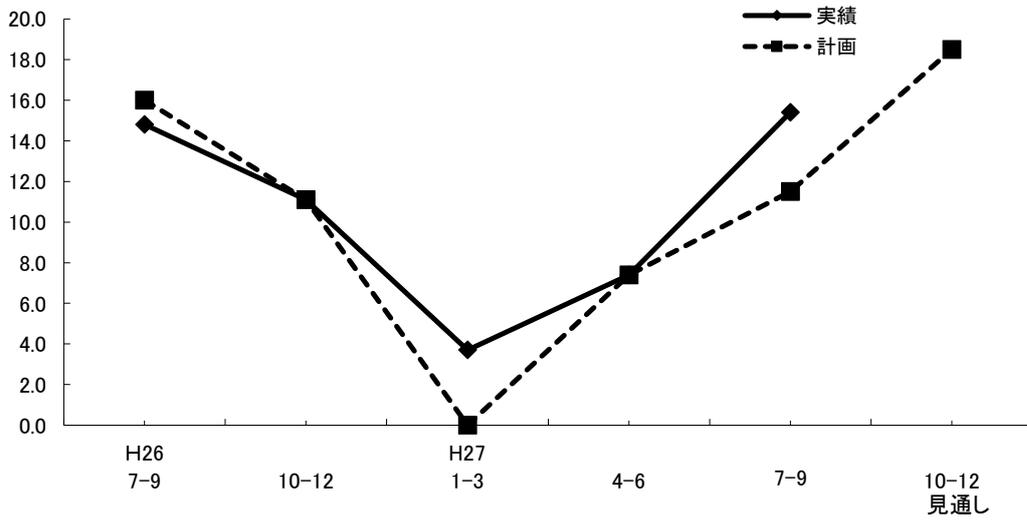
② 採算の状況－前年同期比－



③ 資金繰りの状況－前年同期比－

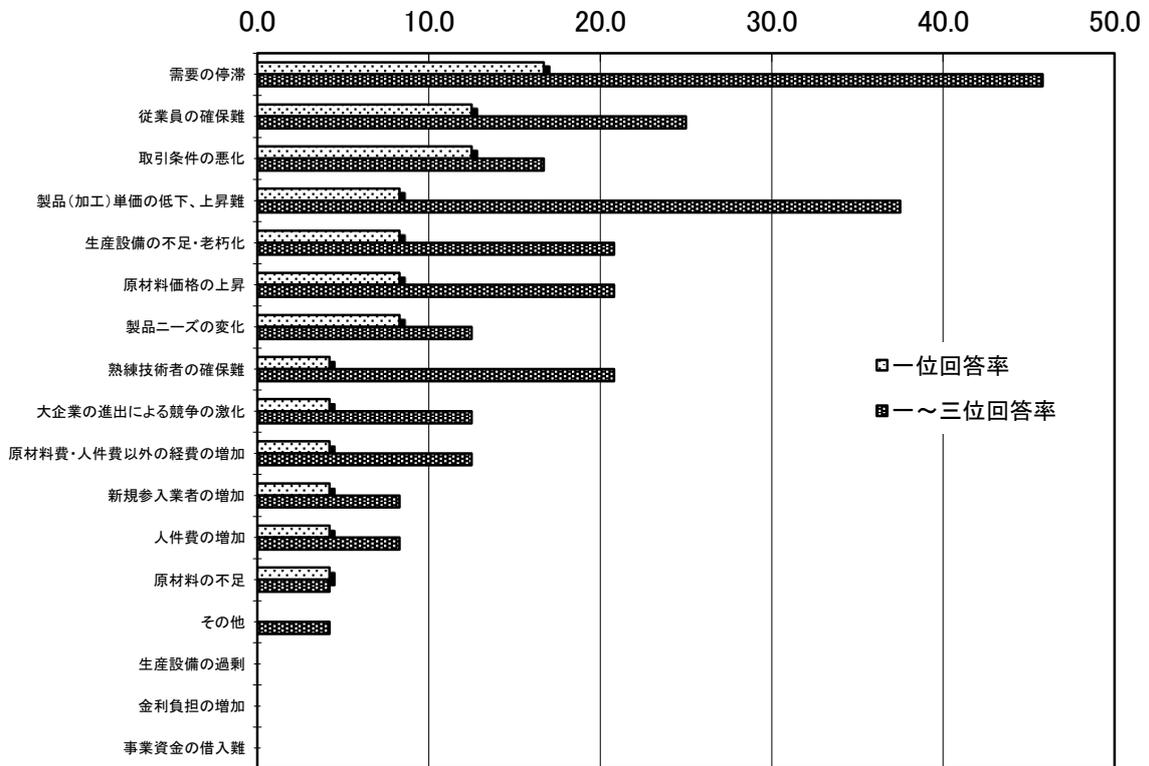


④設備投資の状況



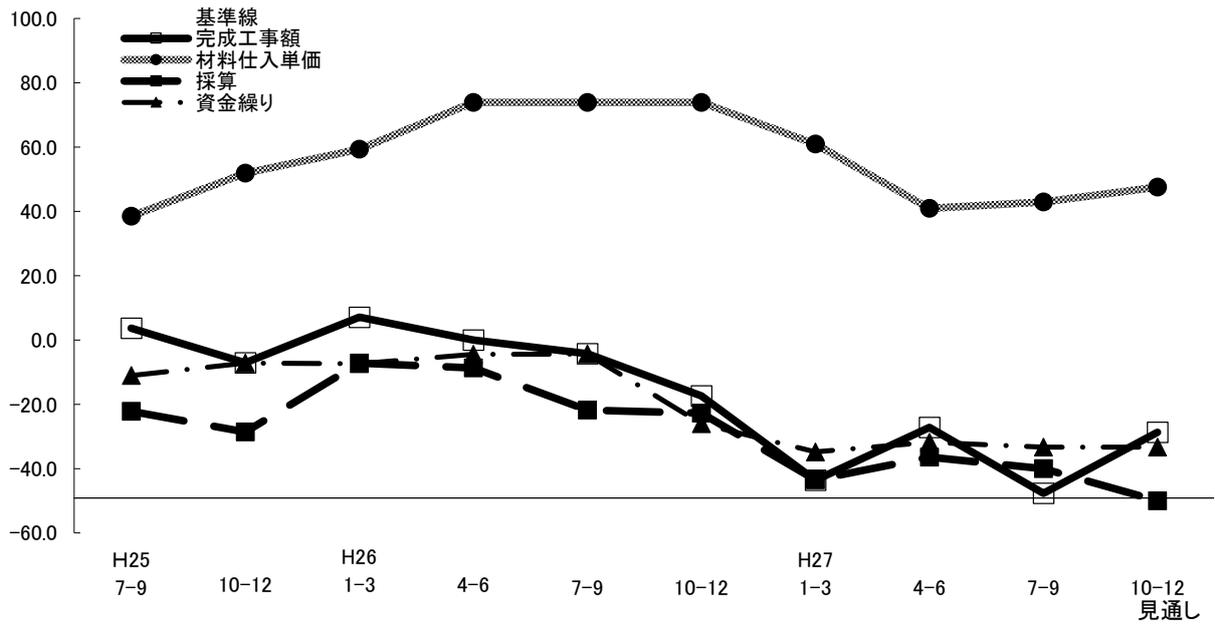
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。  
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



Ⅱ 建設業

主要景況項目の推移ー



主要項目の天気図

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H26/10-12	△ 17.4		△ 22.8		△ 26.1		1.7	
H27/1-3	△ 43.6		△ 43.5		△ 34.8		△ 18.7	
H27/4-6	△ 27.2		△ 36.4		△ 31.8		△ 12.3	
H27/7-9	△ 47.7		△ 40.0		△ 33.3		△ 30.4	
H27/10-12 (見通し)	△ 28.7		△ 50.0		△ 33.3		△ 22.7	

DI: 30.1~.....

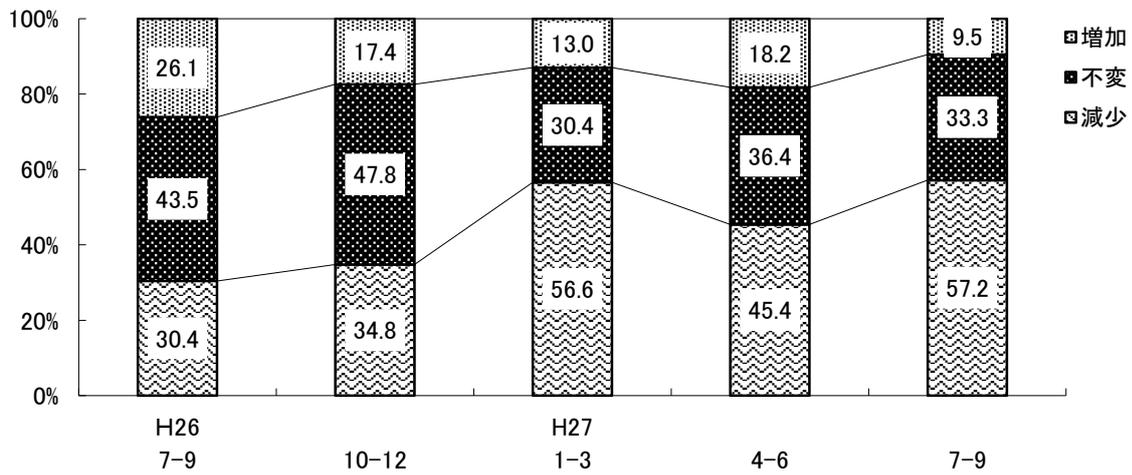
DI: 10.1~30.0.....

DI: 10.0~△10.0...

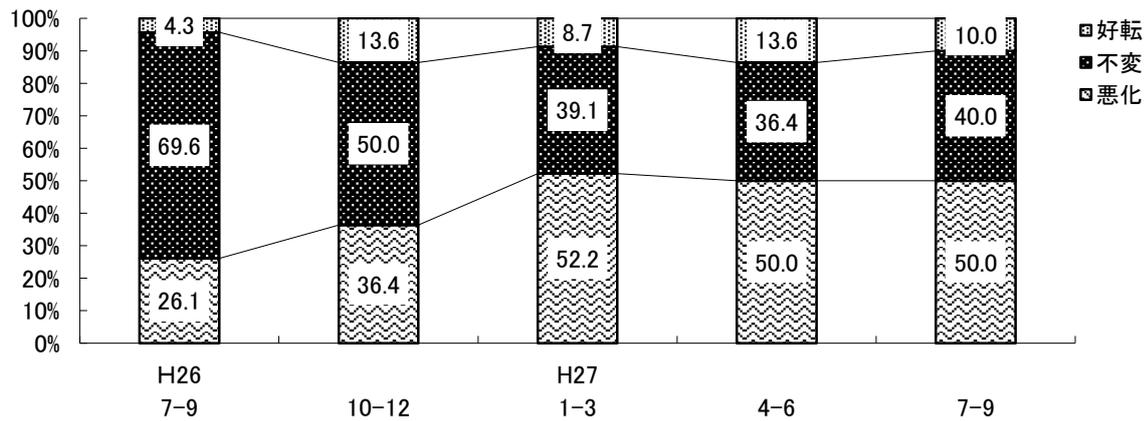
DI: △10.1~△30.0..

DI: △30.1~.....

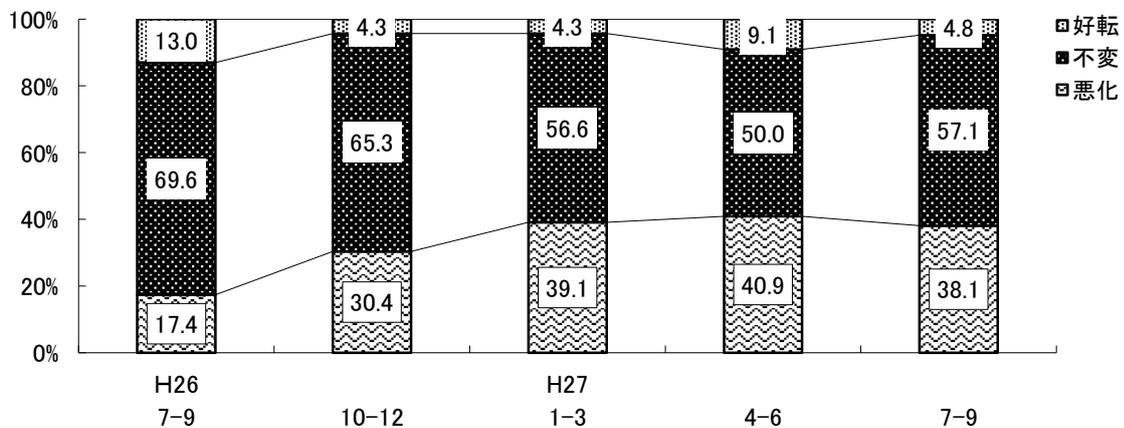
①完成工事額の状況－前年同期比－



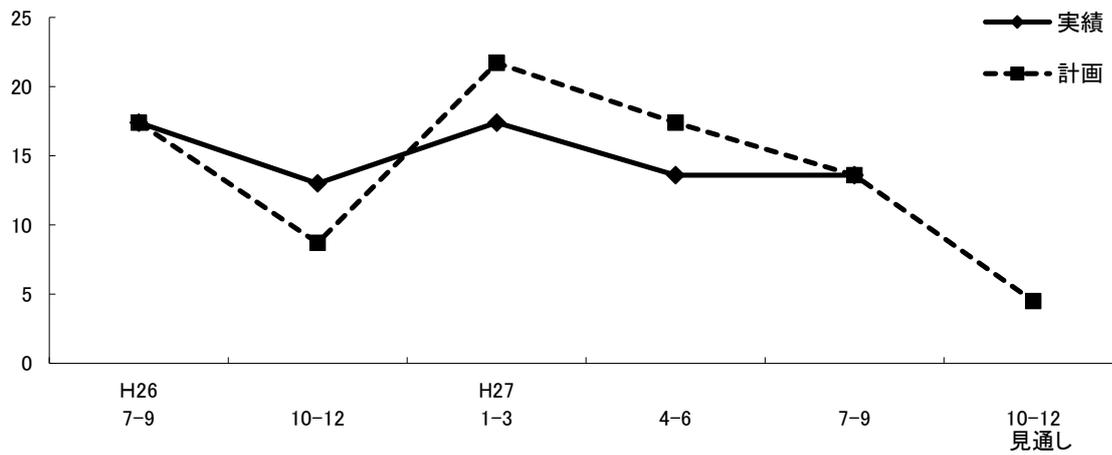
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

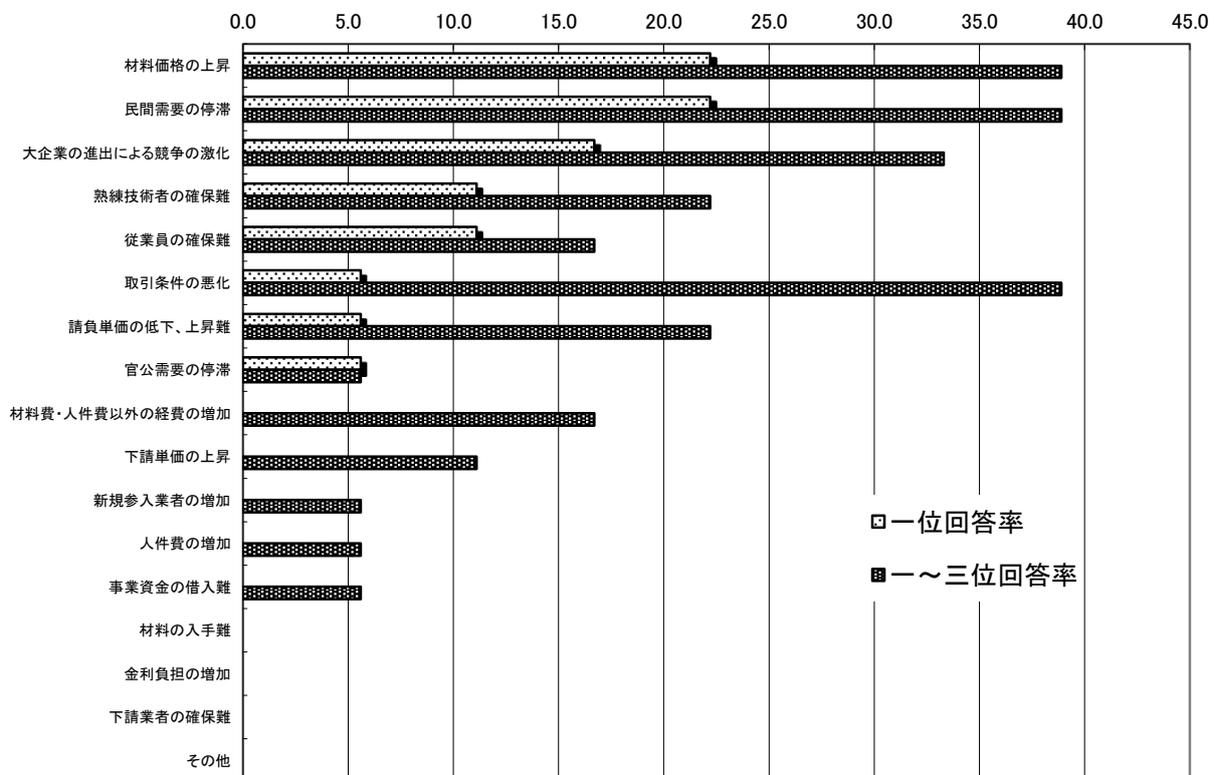


#### ④設備投資の状況



#### ⑤経営上の問題点

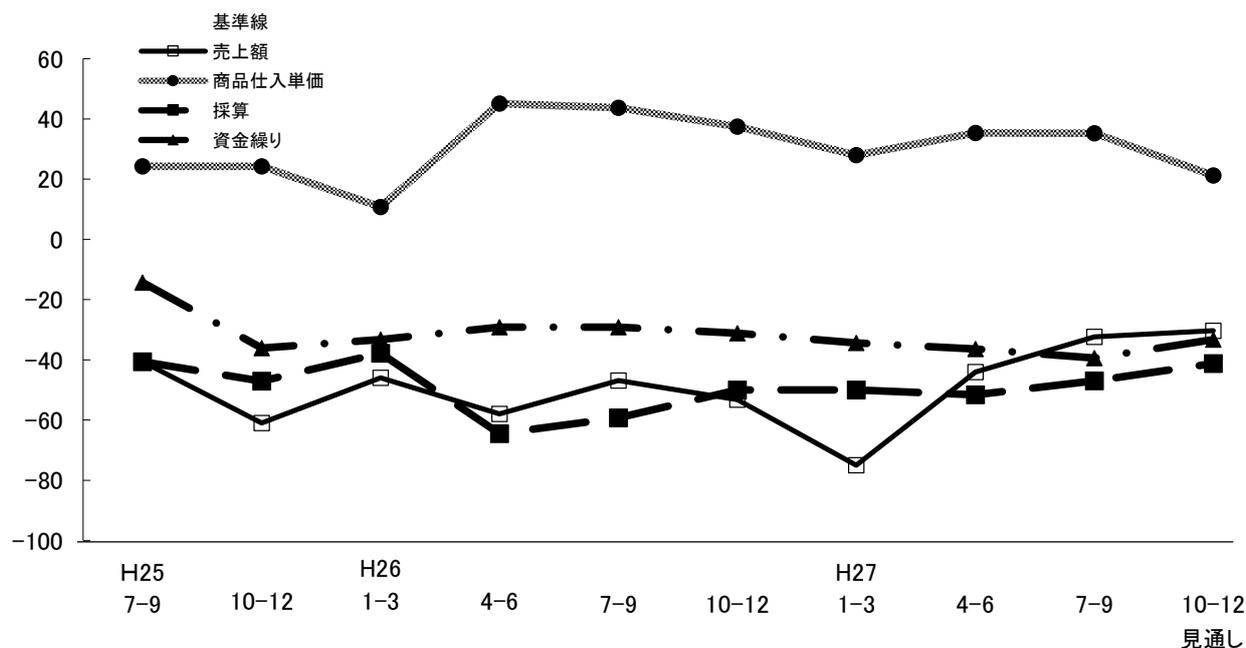
企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。  
経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



Ⅲ小 売 業

今期の小売業の主要景況項目の推移は示すとおりとなっている。

主要景況項目の推移—前年同期比—

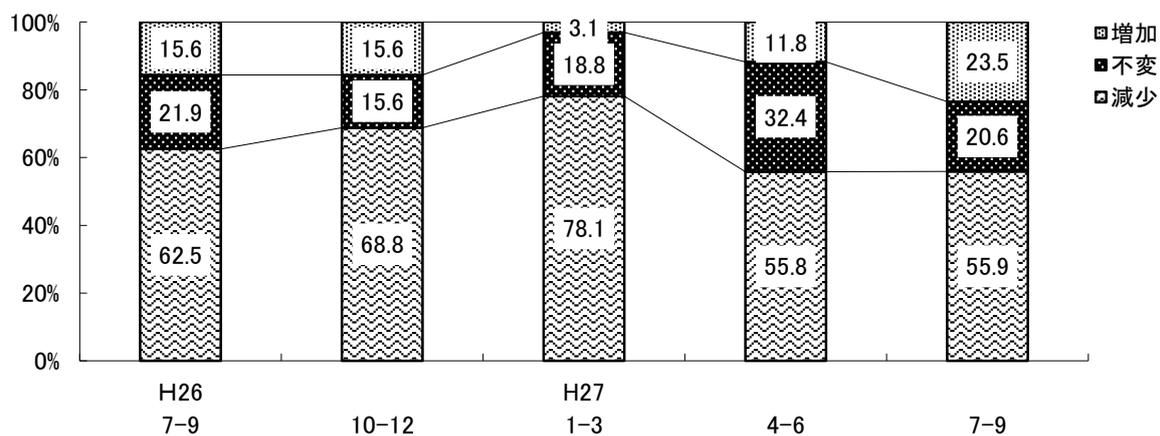


主要項目の天気図

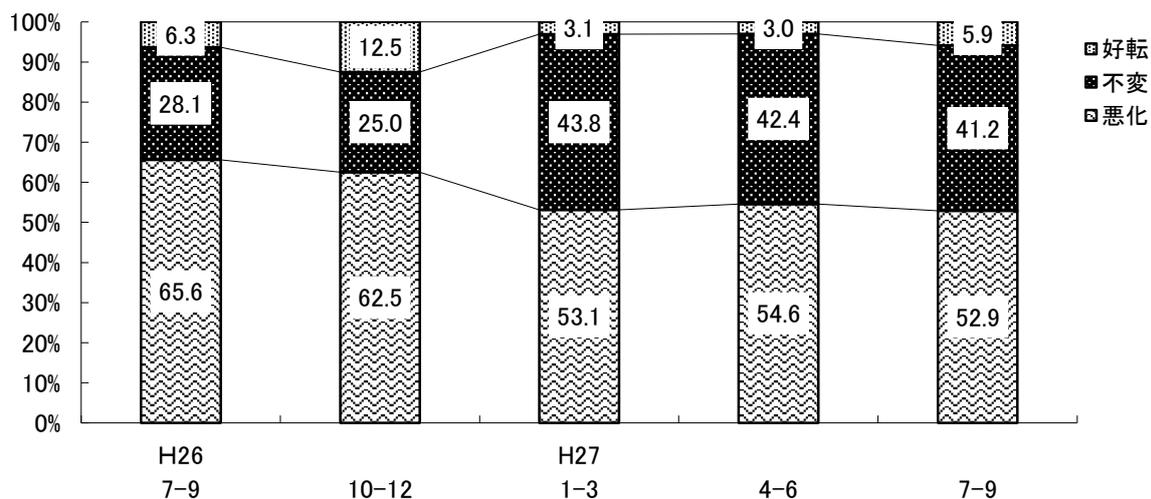
	売上額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H26/10-12	△ 53.2		△ 50.0		△ 31.2		△ 49.1	
H27/1-3	△ 75.0		△ 50.0		△ 34.4		△ 38.5	
H27/4-6	△ 44.0		△ 51.6		△ 36.4		△ 30.4	
H27/7-9	△ 32.4		△ 47.0		△ 39.4		△ 34.3	
H27/10-12 (見通し)	△ 30.3		△ 41.2		△ 33.3		△ 23.3	

- DI: 30.1~.....
- DI: 10.1~30.0.....
- DI: 10.0~△10.0....
- DI: △10.1~△30.0..
- DI: △30.1~.....

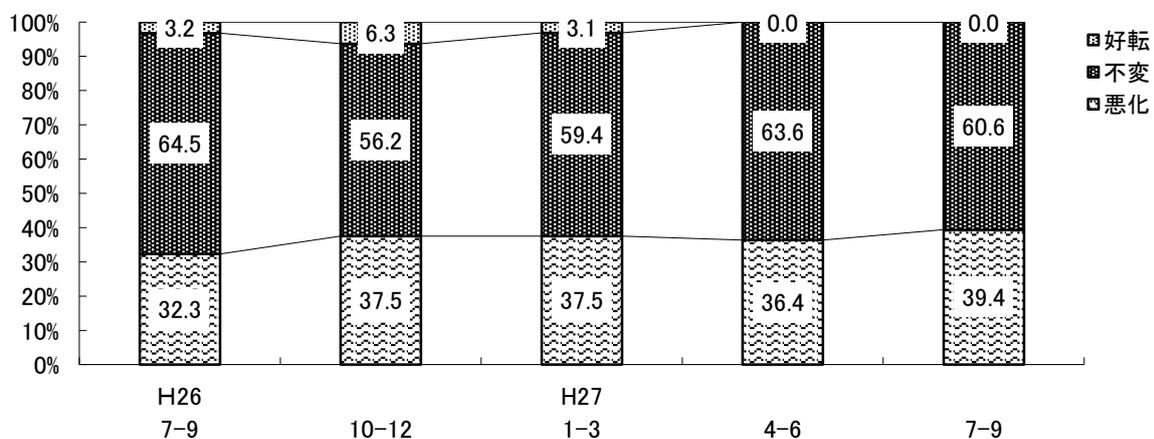
①売上額の状況－前年同期比－



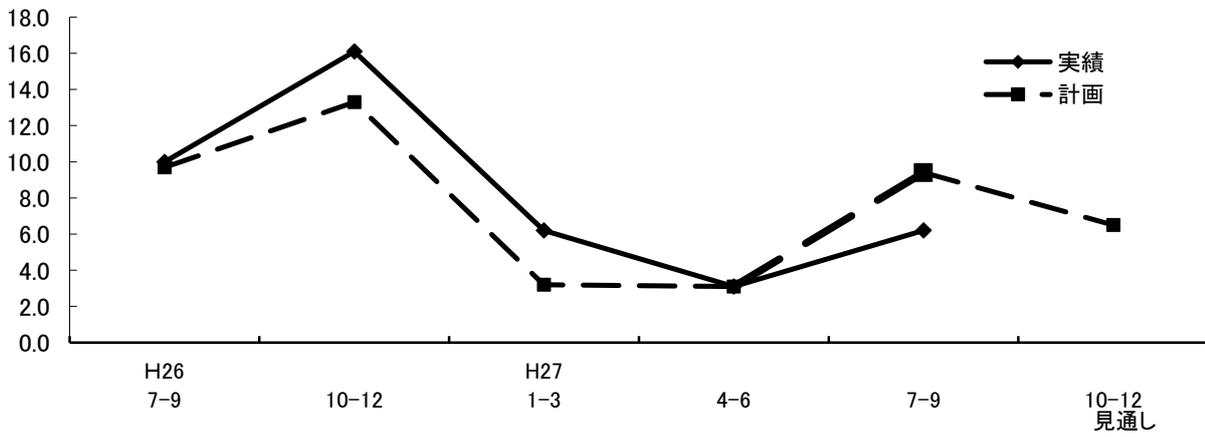
②採算の状況－前年同期比－



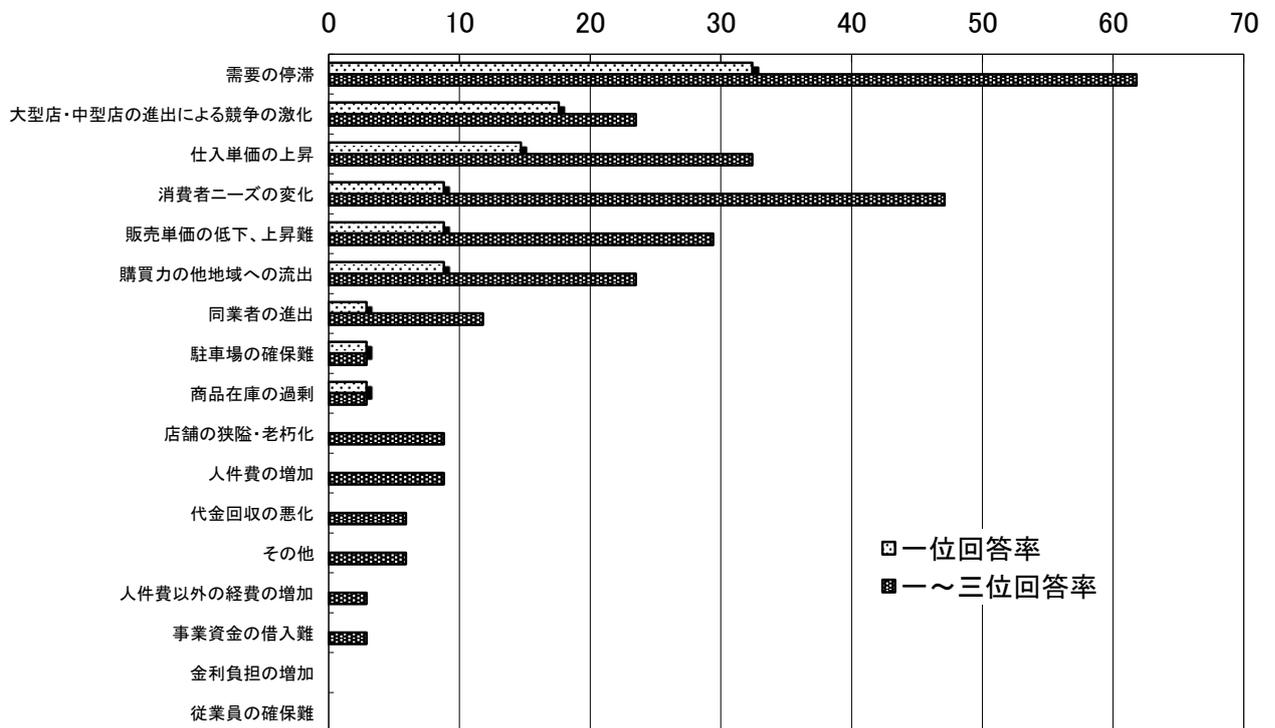
③資金繰りの状況－前年同期比－



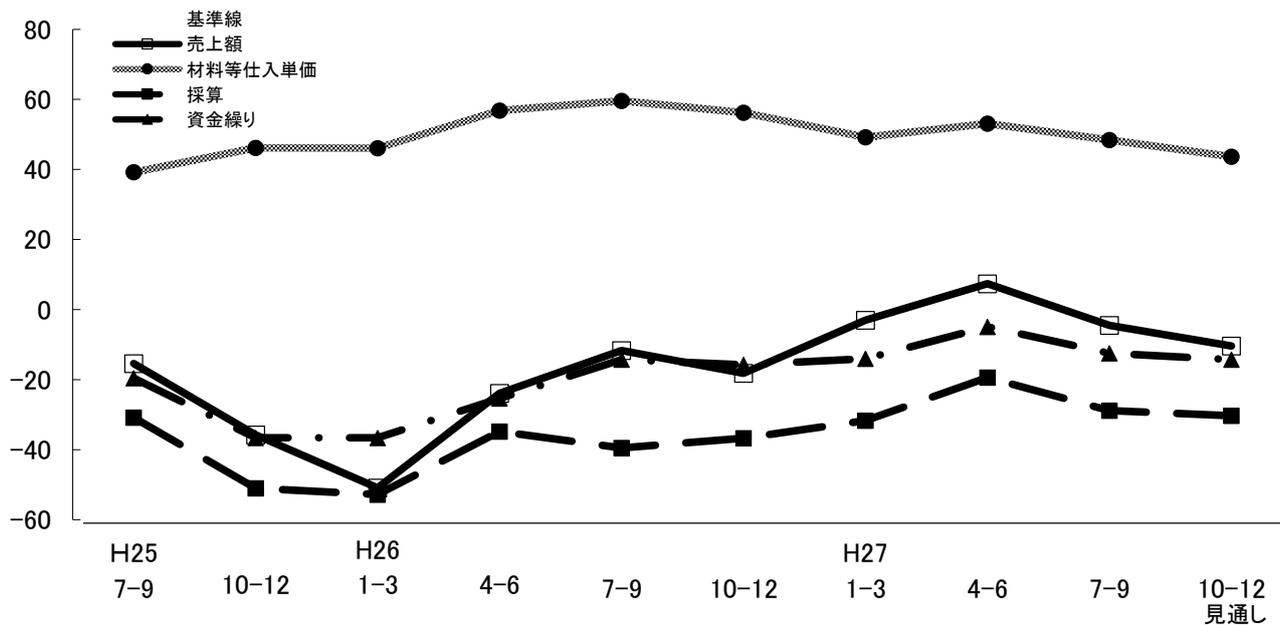
④設備投資の状況



⑤経営上の問題点 企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。  
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



主要景況項目の推移—前年同期比—

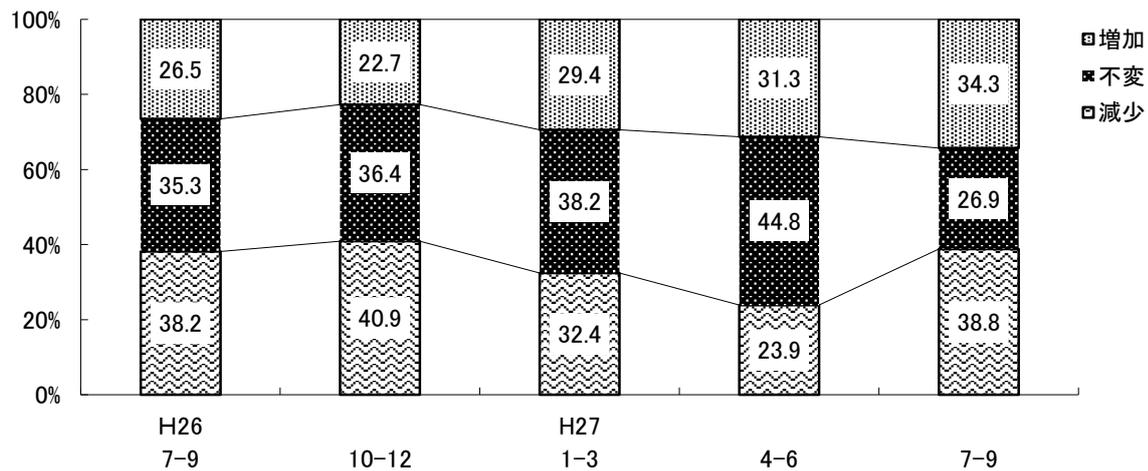


主要項目の天気図

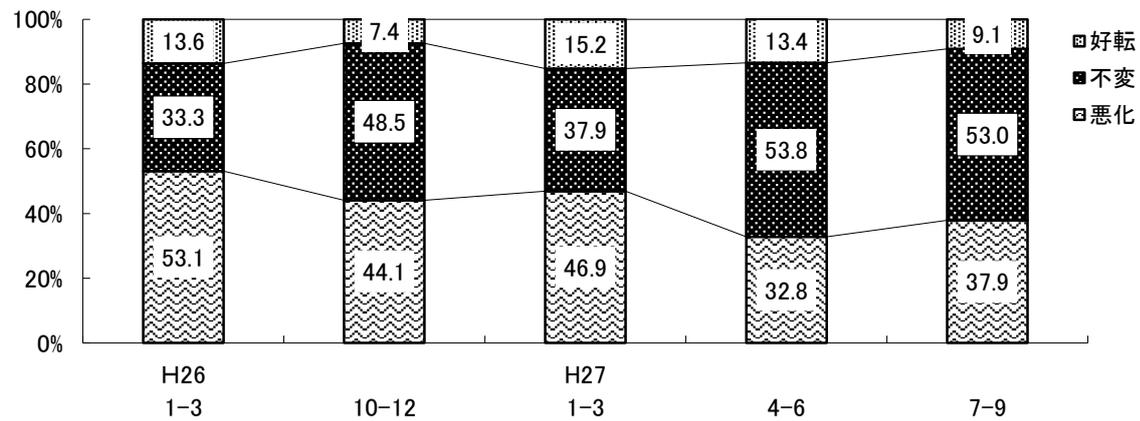
	売上額		採算		資金繰り		業況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H26/10-12	△ 18.2		△ 36.7		△ 15.8		△ 13.3	
H27/1-3	△ 3.0		△ 31.7		△ 14.0		△ 15.6	
H27/4-6	7.4		△ 19.4		△ 4.9		△ 3.0	
H27/7-9	△ 4.5		△ 28.8		△ 12.5		△ 5.9	
H27/10-12 (見通し)	△ 10.4		△ 30.3		△ 14.3		△ 9.1	

DI: 30.1~.....	
DI: 10.1~30.0.....	
DI: 10.0~△10.0...	
DI: △10.1~△30.0..	
DI: △30.1~.....	

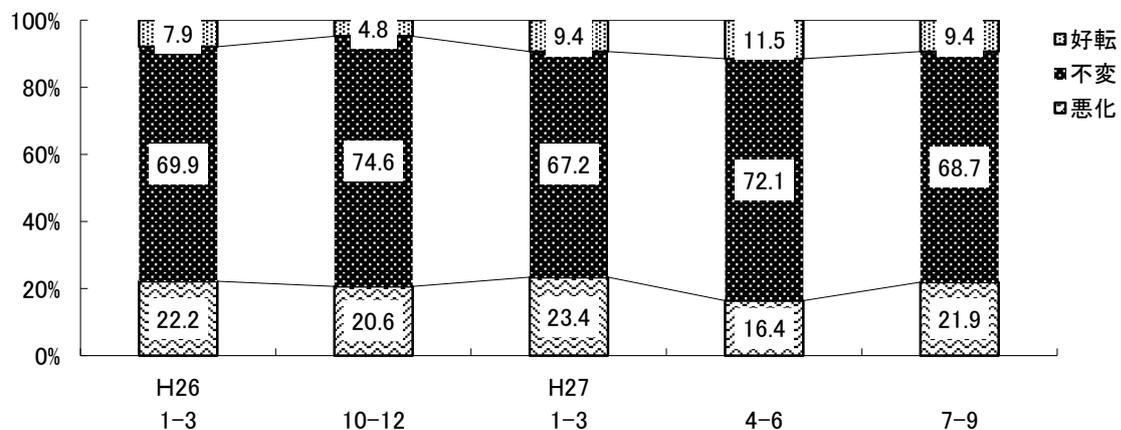
①売上額の状況－前年同期比－



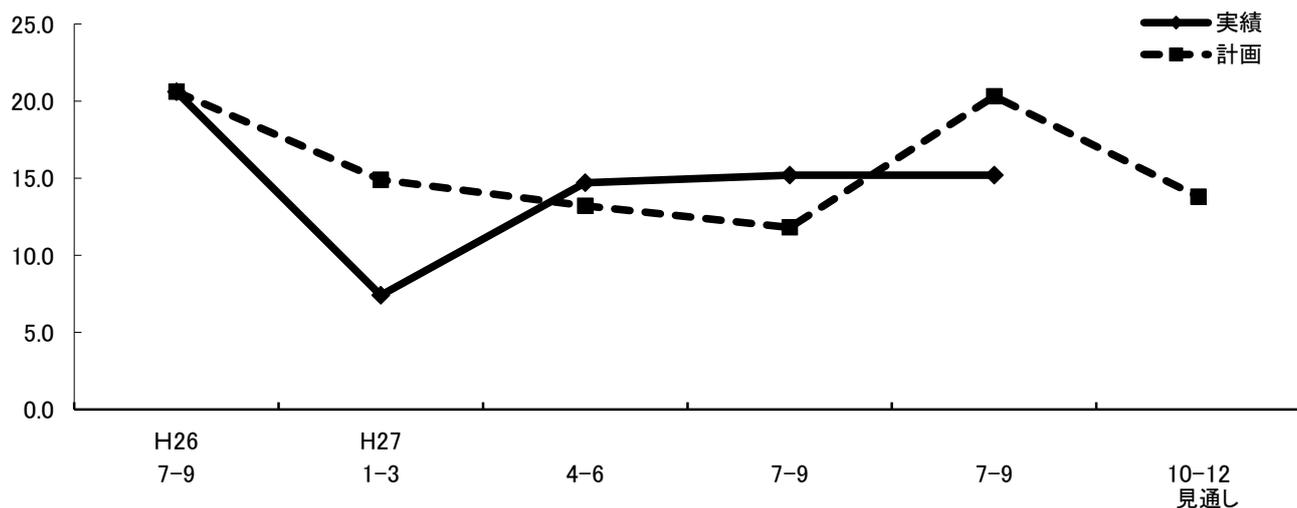
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

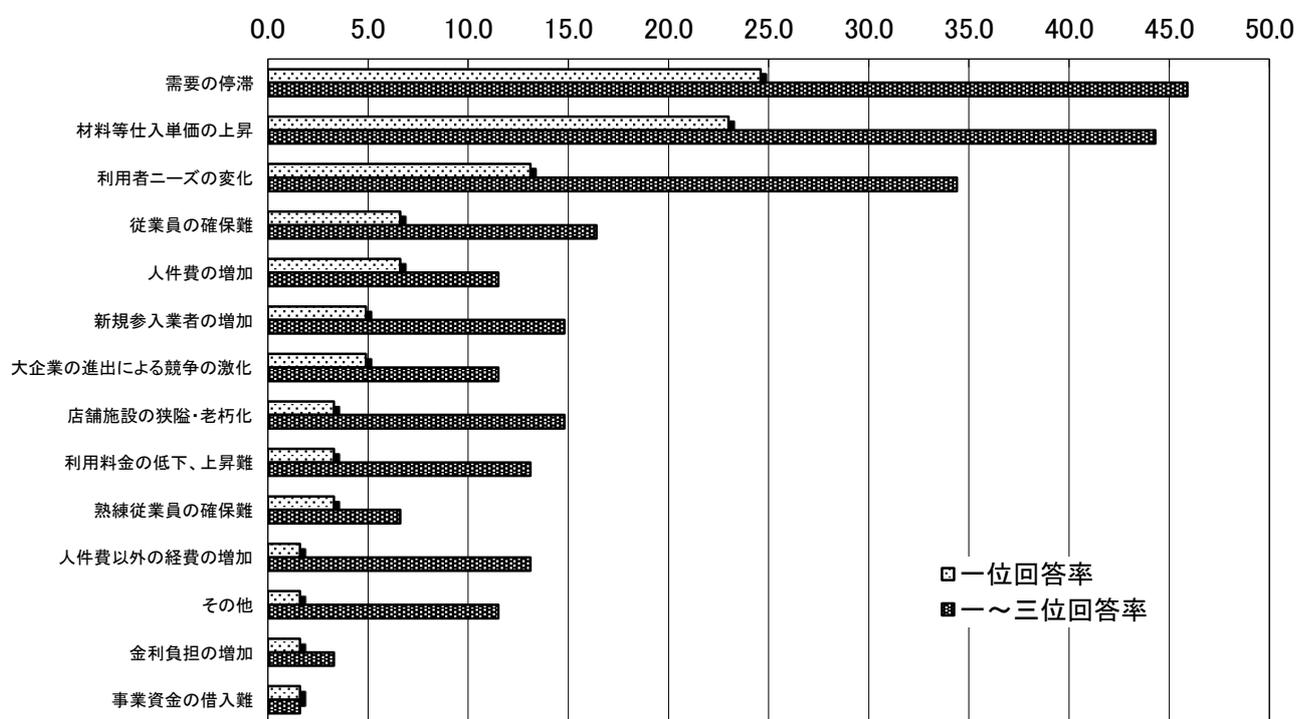


#### ④設備投資の状況



#### ⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。  
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



## 景況判断の背景

### 製造業

- ◇ 今期に入ってから大きい見積もりを3件実行しましたが、設備不足と機械の老化、また1件は90%以上見積りが通ったのに大企業に材料の件で負けました。今の状態は親会社が仕事が不足して従業員を休ませている状態です。先行き解からず。
- ◇ 試作品製作のため、引き続き受注はある程度はあるが、減少傾向にあるため、間口を広げて補う。
- ◇ 今後オリンピック開催に向けて受注が期待できる。
- ◇ 受注増加が継続しない。収益性のある受注が少ない。
- ◇ 収益性の高い受注継続が少ない。
- ◇ 人材不足の解消に努めていき、自社の生産能力を高めていきたい。
- ◇ 客足より製作予定計画はあるが、発注が遅れている状態で来期の後半頃には動き出すと思われる。
- ◇ 従業員(後継者)が、諸般の事情により退職した為、業務の運営の立て直しが急務の課題となった。現状では、社長に相当の負担がかかっており、人材の確保と育成が企業存続のための絶対の条件となっている。
- ◇ 生産設備の不足が、全体の非効率につながっており、設備の更新が不可欠である。
- ◇ 売上が必ずしも利益に繋がらない状態です。
- ◇ 銅など材料単価は下がっていますが、不足の銅線サイズがあり、注文に対応できていません。

### 建設業

- ◇ 引き続き順調に事業が推移している。
- ◇ 官公需要は今も継続的にあり、今後も売上増等、期待できる。
- ◇ 建設会社も下請けに対して材料支給が多くなり売上額が伸び悩む状況。7月、8月は短期集中の工事が多くなるが、他の月では毎年工事の規模によって金額が変わってしまう。
- ◇ 相変わらず建築業界は動きが鈍いです。世帯主の高齢化及び人口減少等の悪循環の為にリフォーム工事等をすすめる意欲が全体的に薄らいでいて景気の悪い状況を全般的に生み出しているように感じられます。
- ◇ 大手ハウスメーカーの下請けにならないと仕事が無く、自立での受注は今後とも無理である。
- ◇ 大手ハウスメーカーの下請けにならないと受注が無く、個人からの受注は減少し、増改築の仕事しかない。
- ◇ やや低調だが、先の受注もあり、業況はそこまで落ちていない。
- ◇ 前年度は、消費税の増税により仕事が次々とあったが、今期は、物件がある時はあるけど、時期によっては、激減してしまい、仕事量の変動が激しく、タイミングを逃さずしないとかなり厳しい状況になってしまう。
- ◇ 公共工事に対する競争が激しく、落札することが困難になっている為、民間工事を安価で受注してしまう傾向がある。

### 小売業

- ◇ 増税により、消費者の置替えの注文が少なくなっている。
- ◇ 6月に売上が増えているが、これは父親の葬儀の返礼品の全額を載せたもので比べようがない。大型・中型店の価格に対抗することは難しく、その他のサービス(配達)等では限界がある。
- ◇ 大型店出店により業況の悪化。
- ◇ 消費者の高齢化により料理を作らなくなりつつあり、また、夏の暑さも影響している。焼き鳥は順調に出ている。
- ◇ 昨年に比べて業績は良くないが、徐々にではあるが、回復の兆しが見えている。
- ◇ 売上に直接は繋がってはいないが、お客様の購買意欲は上がってきているように感じる。
- ◇ 売上が伸びず厳しい状況である。
- ◇ 原材料は一度値上げをすると下がることはないので、早急に対処しなければなりません。先日のプレミアム商品券は、当社において消費を促す良いきっかけになったような気がします。
- ◇ 来店客数や売上の減少に伴い、品揃えの減少で大型店との差が広がる一方である。
- ◇ 繁忙期である前期から比べれば今期の売上額が落ちるのは当たり前である。前年に比べると良い日と悪い日(天候の急変の増加などによる)の差がハッキリとしてきた様である。
- ◇ 文具製品の値上げ、書籍が売れない。学校や役場での注文も予算の減少のことを言われる。営業をかけても、予算がないと言われてしまうとうとうにもならない。
- ◇ 消費増税や仕入価格の上昇により物価が高くなり、購買意欲が失われている。実質賃金も充分には上がっていない。
- ◇ 悪い。良くなる兆しは全くない。一部の大企業その他、中小企業の給与は下がっているし、来年消費税が10%になったら益々悪くなると思う。
- ◇ 大型店及びコンビニエンスストアに客を取られビール等が大幅な減少である。日本酒等の特別品等で販売を伸ばしている。
- ◇ 得意先の廃業が多く、売上減少に結びついている。
- ◇ 顧客の高齢化による農家の減少で売上の見込みの減少及び購買意欲の低下、今後は営業地域を拡大し顧客の獲得に努めたい。

- ◇ 猛暑による客数の減少、物価高の二重苦。今後の増税が心配。
- ◇ 神奈川の各イベントに出店し、売上を伸ばそうとしています。なかなか思うようにはいきませんが。
- ◇ 地域の方々は意外に閉鎖的な思考の方が多いように思う。良いことを横に広げるような方がいらしたら良いのに・・・と思う。

## サービス業

- ◇ 利用者が減少している。
- ◇ 受注もコンスタントに入り、順調である。
- ◇ 事業を承継させたいが、思うような人材がいない。
- ◇ 新たなメニューを加えたところ好評。
- ◇ 高齢者中心で新規顧客増が期待できない。
- ◇ 当店は日本そば店だが、近隣にはここ2～3年の間にラーメン店の出店が多く、競争が激化している。
- ◇ 若者客など新規客が増え、ホール対応のため、元気ある従業員を募集しているが、人材確保が難しい。
- ◇ 売上額は一定している。新規顧客増が少なく、チラシ等定期的にポスティングを計画している。
- ◇ 円安により多くの材料等の仕入れ額が上がっているように思われる。消費額は思った程上がらず景気は悪い。箱根山の噴火警戒レベルが上がってから一層悪くなった。
- ◇ 上半期はアパート退去率が高かったが、下半期は今までのようにはいかないだろう。仕事が減少かな？
- ◇ 店舗の修繕等もあり大変なことばかりです。お客さんの財布の紐はかなり固いと感じております。
- ◇ 昼間の営業は良いが、駅前にしては夜間の人通りがあまり良くない？(全くいないわけではないが。)道路もあまり明るくないためか人も避けているような状況で、営業にも影響しているのかなとも感じる。営業努力はしています。
- ◇ 今年度は特に新規展示会開催が増加し、企業も販売機会に期待し出店意欲は高まっている。但し相変わらずコストはかけずに様子を探っている状況。輸入中心の外資企業は円相場の影響により苦戦。販促への姿勢は弱い状況。
- ◇ 8月決算は対前期売上1.23%の増加。収益も1.75%増収の見込みである。今苦慮していることは、売上増加に伴う従業員の確保が難しく、確保出来れば売上は伸長する。理由は、コミュニティ型営業に切替えた為。
- ◇ 年齢層が高いために減少がある。
- ◇ 若年層の来店が増えつつあり、既存客の減少を補っている。
- ◇ 売上・利益ともに月々の増減はあるが、四半期単位で見るとほとんど前期と変わらない感じである。原材料の値上げにより、今後、利益率に影響(悪化)が予想される。何らかの対応が必要かもしれない。
- ◇ 全体的に売上は微増している。客単価は、変わらないが客数が若干名ではあるが上昇している。材料が、全体的に上昇基調にある為、利益率で見ると、むしろ低下傾向にある。客単価アップの工夫が必要と感じている。
- ◇ 介護保険の見直し等により、後期高齢者の支出の増加と年金収入の減少による経済状況の悪化の為需要の減少が起きた。
- ◇ 営業形態を変えて昨年と同レベルになった。
- ◇ 売上も上がってきて、安定してきました。今後、売上増加と客数の増加の為に利用者のニーズに対応できるようにしたいです。
- ◇ 今期においては、天候の激しい変化なども影響しているのでは。7月の長雨、8月の猛暑などサービス業においては悪い状況が続いたと思います。
- ◇ 増税を行った直後よりは客足も増えてきたような気がするが、まだ低迷しており連休も9月にあり、地元消費が見込めず前年度よりさらに悪化する気配がある。
- ◇ 債務超過の為、経営困難。
- ◇ 仕入単価上昇はどこも同じ条件なので少しでも売上アップに繋がるメニュー作りやサービスを心掛け、引き続き売上上昇に力を入れたい。7月、8月上旬は猛暑が続き人出が少なかったが涼しくなってきたので期待は持ちたい。
- ◇ 代理店経由の受注が増加した。
- ◇ 低価格チェーン店進出による競争の激化。
- ◇ 5月GWの反動で、6月～7月の売上が伸びなかった。
- ◇ 今期は、価格改正した個所もあり売上は増加していますが、円安による仕入単価上昇もあり採算業況は不変です。来期、同業者の参入があり、悪化は確実の状況です。